

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	このえ雑色小規模保育園
所在地	東京都大田区南六郷2-7-20 フォレストクワトロ1階

1 活動のテーマ

【声/音/動きの表現遊び】

＜テーマの設定理由＞

当園はビルの1階という限られた都市型の保育環境にある。この環境特性を活かし、限られたスペースでも子どもたちが最大限に自己表現し、健やかに成長できるよう、強みである独自のプログラム「こころのじかん」を活かして本テーマを設定した。

「こころのじかん」では、自身の気持ちに気付き伝える力や相手の思いを想像する力、声の専門家を招いて表現力を育むプログラムを行っている。また日々「曲やリズムに合わせて体を動かす、踊る」といった活動を多く取り入れており、子どもたちから「〇〇体操をやりたい」「一緒に踊ろうよ」などの声をよく耳にしている。大好きなリズム遊びを通し、楽しく音楽と触れ合いながら、子どもたちの発達に不可欠な【声・音・動き】の三感覚統合（聴覚、触覚、身体感覚）をより促進させ表現力を豊かにし、このえ雑色小規模保育園の保育プログラムをより分かりやすく子どもたちや保護者へも届けるためにリトミックを導入した。自分の体の動きを正確に感じ取る力を育み、考えながら体を動かす計画性や、表現力・想像力も大きく伸ばせるよう、リトミックに遊具や教具も用いて行う。

2 活動スケジュール

- ① すくわくプログラムへ参加するために視聴勉強会を実施
- ② 本部保育責任者と共に活動内容とねらいについて視点合わせ。園内担当者の選任と実施計画の立案（9月～）
- ③ 担当者はリトミック研修にて理論と実践を学ぶ（10月～）
- ④ 園内にてリトミックを実施（10月～）。個々の発達過程を大切に、子どもたちが友だちと一緒に楽しんで取り組める姿をねらいとし、日々の生活スケジュールの中にリトミックタイムを取り入れる
- ⑤ 日頃のリトミック活動で培った「他児とリズムや動きを揃える感覚」を土台とし、子どもたちが自ら「こう表現したい」という主体性を発揮しながら、表現することの楽しさを共有する（12月～）

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

① 【リトミックの実施】

太鼓やタンバリン等を使いながらリトミックを実施。

② 【リトミック動画・ガイドブックの制作】

子どもたち自身がより興味関心を持って取り組めるよう、また保育者の取り組みが深まるよう月齢数の発達に沿った言葉・文脈でストーリーを構成し【声/音/動き】を取り入れた動画・ガイドブックを制作。

③ 【発表会の実施】

子どもたちが自身の表現に自信と主体性を持って発表出来る時間と場所を設定。

□

4 探究活動の実践

<活動の内容>

①楽器を使用したリトミックの実践

- ・太鼓やタンバリン等の楽器を使用し、2歳児がリズムを聞き分け、保育者や友だちとのずれや音の強弱に気づきながら手拍子で表現した。
- ・友だちに声を掛けたり、顔を見合わせながら歩く、走る、輪になるといった全身表現を楽しんだ。
- ・2歳児の姿に刺激を受けた1歳児からも「やりたい」という意欲的な訴えがあったため、その気持ちを受け止めて1歳児クラスでも導入し、リズムに合わせて走る・歩く・止まる・寝転ぶといった動的な活動を主体的に展開した。

②発表会の体験

- ・リトミックの実践を通じて培った豊かな表現力や友だちと呼吸を合わせる感覚を土台に、子どもたちが自らの表現に自信と主体性を持ってセリフを発信できる発表の場を設け、グループで協力しながら一つの目標に挑戦する姿を保護者と共に温かく見守り、成長の喜びを分かち合える貴重な体験の機会とした。

③振り返りと発信

- ・活動終了後に保育実践者と指導者で振り返り、評価を行う。このプロジェクトは園全体の取り組みとし、担当委員も任命。活動内容は園内掲示、園だよりでのお知らせやホームページでの公開、保護者会、運営委員会での発表も実施していった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>



<振り返りによって得た先生の気づき>

今回初めて2歳児の保育活動にリトミックを取り入れてみたところ、最初はただ楽しそうに手拍子をしていた子たちだが、徐々に音に対する反応や他者との調和を気にする姿が見られてきた。リズムを合わせることは難しい様子も見られたが、友だちや保育者と合わせようと意識したり、手を繋いで大きな輪を作る際には自然と全員が入れるよう場所を譲り合ったりする配慮が見られた。

子どもたちも『(太鼓が止まると)あ、止まった。(手を)叩かないんだよ』、『(音の強弱を聞き分け)弱、弱、弱…これは強!』、『(輪になる際に)〇〇ちゃん、ここ空いてるよ、おいで』など、音やリズムを全身で感じながら個々の考えを言葉で表したり、『ティラノサウルスは強いから手はこう(カギツメ)でドシンドシンって歩くんだ』、『赤ちゃん恐竜はちっちゃなギャオーって声だけど、〇〇ちゃんはお父さん恐竜だからギャオーーって声でやる』など、自身でイメージしたものを友だちと話し、刺激し合いながら体全体で表現する姿があった。

リトミックを通して自ら「こう表現したい」という主体性が引き出され、それが自信へと繋がっていき、個々の成長と社会性の育ちに繋がったと実感している。より友だちとの関わりが深まり、職員間でも、子ども達の言葉や行動を拾い上げながらさらに人間関係を広げ、深いかかわりへと繋げるためにはどう展開していくか活発な意見交換がされ、保育者の学びとなった。